

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

地域・学校協議会委員	
□町公民館長 (1)	} 計6名
□学識経験者 (1)	
□元PTA役員 (3)	
□現PTA役員 (1)	
*松岡小学校区3名	
吉野小学校区1名	
御陵小学校区2名	
□本校職員(校長・教頭・教務) 計3名	
	合計 9名
地域コーディネーター (2名)	
公民館長、同窓会会長	

(2) 協議会の内容

- 第1回 5月28日(火)
- ・令和元年度の教育計画全般について
 - ・生徒の状況について
 - ・情報交換、その他
- 第2回 11月15日(金)
- ・学校祭(体育祭・文化祭)見学
 - ・2学期の教育活動全般について
 - ・給食試食 情報交換、その他
- 第3回 2月25日(火)
- ・年間の学校の様子について
 - ・新年度の見通しについて
 - ・学校評価について
 - ・一年間の反省、その他

(3) 協議会における成果と課題

学校評価や学校の実情を詳しくお伝えし、ご意見をいただいた。特に家庭でのSNSの諸問題と、教員の働き方改革については多くのご理解をいただき、来年度への取り組みの参考となった。学校外で見られる生徒の様子や地区の危険情報も伺い、早めに対応できた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

本校は、福井平野の東部に位置して、福井県一の大河九頭竜川をまたぐ永平寺町の西端にある学校である。

本校の裏山には、「越(こし)」という古代国家の王族が葬られたものと言われる大小様々な古墳群がある。また、越前松岡藩の城下町として栄えた歴史もある。それらの伝説や名所旧跡をもとに旧松岡町商工会が制作した「まつおか発見伝歌留多」は、故郷の良さを子どもたちに伝えるものとなっている。本校では、その歌留多に記されている場所を実際に回って実物に接することにより、ふるさとに対する関心をより深め、愛する心を育むことを目的に、ウォークラリー大会を開催している。

また、キャリア教育の一環として、職業観を育成することを目的に、本校を卒業して30年後の今、現在第一線で活躍している本校卒業生の方々を招いて、授業(講演)をしてもらう「お帰り松中生」を行っている。

(2) 活動の実際

①松岡発見伝ウォークラリー大会(1~3年生)

事前活動として、1年生は「まつおか発見伝」歌留多大会を行い、町内の名所・旧跡の位置やいわれについて事前に学習する。次に全学年とも1学級を6グループに編成し、指定された町内の名所旧跡の中から、時間内に回れるチェックポイントを選び、班ごとに計画を立てる。

当日は学年ごと一斉にスタートし、計画に沿ってチェックポイント



(様式3)

回る。競技は、距離の遠近の得点とクイズの得点を合計し、全学級対抗で競う。昨年よりPTAの役員方に給水所を設けていただいたり、地域の住民ならではのクイズを出題してもらったりしている。日ごろからなじみの深い地区にも、違った一面があることを知り、改めて郷土の魅力を感じていたようである。



今年はいいにくの雨の中での大会となったが、生徒の意欲は衰えるどころか、かえって涼しいコンディションの中でより活発に活動し、PTAや地域の方々と元気なあいさつを交わしたり、いわれを教えてもらったり、一緒に写真を撮ったりと幅広い交流を図ることができた。

②おかえり松中生～教えて先輩～（1～3年生）

本校の同窓会が中心となり、卒業後30年目の先輩14人が、現在の職業のやりがいやその職業を志した理由について生徒たちに授業を行う。文科省のキャリアや技術者、コンビニのオーナーなど、様々な職種の内情を、講話や体験を通して生徒たちに分かりやすく伝えていた。生徒たちは、大先輩の話に熱心に耳を傾け、今後の進路に対する思いと、自分なりの職業観を構築していた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・ウォークラリー大会の運営参加とPR協力
- ・「おかえり松中生」の企画・運営参加
- ・「おかえり松中生」の講師選定の協力と連絡調整

(4) 特に工夫した事項

- ・松岡発見ウォークラリー大会においては、歌留多の名所から毎年違ったポイントを設定し、3年間で全てのポイントを巡れるようにしている。クイズの設問には、教師以外にPTAにも参加してもらい、地元の方ならではの問題を出題した。当日の本部運営は生徒会執行部と体調不良の生徒が当たり、自主運営を見守った。
- ・おかえり松中生～教えて先輩～においては、進路選択が間近に迫っている3年生より講座を選んだり、運営はそのとき学校の中心となっている2年生に任せたりするなど、学年の状況を考慮した役割分担を行った。授業後の生徒の感想は全部コピーして講師の先生にお渡しして、多くの好評を得た。

(5) 成果と課題

今年で「ウォークラリー」は17回、「おかえり松中生」は16回を迎える。この間に2つの行事は、生徒にも保護者にもOBにもかけがえのない行事となった。

ウォークラリー大会は、もともとマラソン大会の代わりに体力作りと地域の理解を深めることを目的に始まったものだが、地域への広報やPTAの参加によって、地域の方々と触れ合いが深まった。今後もこの行事を継続し、「地域に学び・地域に元気を発信する」中学校でありたい。今年度は新元号に伴う10連休の関係で4月下旬実施ということになったが、早めの広報で地域の方々に知らせることができた。

卒業後30年のOBを講師として招いて行う進路学習は、講師の方々にも生徒にも深く心に焼き付くものが多いと感じる。生徒は現在社会の第一線で働く方々の話で、“天職”というものを意識できるし、講師の方々には、「授業」という形で後輩に話ができるのは、何より嬉しい事のようなのである。最近では次の担当学年に「とても良いぞ」と伝えてくださり、日程をやり繰りして参加して下さる方もいらっしゃるという。先輩と後輩の絆の深化と正しい職業観育成に大きな効果があるこの行事を、今後もますます発展させていきたい。